

■ 第1回構想会議実施レポート

令和4年7月24日



2022年7月25日(月)に第一回みどりのオープンスペース構想会議を開催いたしました。当日の様子についてのレポートを記載いたします。

① 自然資源活用に関する まちづくり実証実験 (構想会議・実証実験イベント「inabe Green Lab.」)

■ 開催目的

みどりのオープンスペースの基本構想について、いなべ市民のアイデアを収集すること
施設運営の中心プレイヤーとなり得る方を発見すること

■ 第一回構想会議実施の背景

にぎわいの森において、滞在時間の短さや市内の回遊性の低さなどの課題解決のため今年度より新しい取り組みを実施いたしました。「みどりのオープンスペース」をテーマに、市民が日常的に活用するいなべの自然資源を活かした新たなスペースの設置を目指しています。ハード面の設置だけではなくソフト面の充実を目指し、構想段階より意欲的に参画できる市民プレイヤーの創出も大きな目的として掲げています。そこで、「構想会議」という形で市民参加型のアイデアワークショップを開催いたしました。

■ 当日の実施スケジュール

- ・ 10:00～10:05 みどりのオープンスペースについて概要説明（中世古様）
- ・ 10:05～10:15 エコムクリエーション自己紹介、当日の流れの説明
- ・ 10:15～10:35 参加者自己紹介
- ・ 10:35～12:00 ワークショップ実施（詳細は後述）
- ・ 閉会の挨拶

第3回構想会議実施レポート

令和4年9月5日



2022年9月5日(月)に実証実験イベントの内容に関するワークショップを開催いたしました。
イベント会場である「屋根のない学校」にて、現地視察も含めてワークショップを実施しております。

開催目的

みどりのオープンスペースにおける、ターゲット設定の共有と
イベント当日のコンテンツ内容の検討、設計

当日の実施スケジュール

- ・10:00~11:00: 今回の趣旨・目的の説明、施設見学
- ・11:00~12:00: チーム分けを行い、アイデア出しと発表
- ・以降、イベントへの参加可否の確認などの諸連絡

ワークショップ実施詳細

みどりのオープンスペースにおける想定ターゲット層	次の世代の利用につながる、大切なターゲット層 みどりのオープンスペースとして、より幅広いターゲット層の利用についても想定し、大切にしたい。
 <p>20代後半~30代の親・子ども</p> <ul style="list-style-type: none">■遊具のある公園が少ない■子どもも外で遊ばせてあげられない(特に夏の日)■親自身も自然にあまり触れできていない。自然との関わり方を子どもにも教えられない■観も少しくらい休みたい	   <p>20代:社会人</p> <ul style="list-style-type: none">■思いやりで遊ぶところがない■自然に触れたいが、ゆっくりできる場所がない■働きながら自然と触れたい■自然に触れたいが、都市部に出かけてしまう <p>10代:中高生</p> <ul style="list-style-type: none">■自然以外で友達と一緒に遊ぶ場所がない■少し上の10代20代と世代に差を感じる <p>60代以上:シニア</p> <ul style="list-style-type: none">■健康に学習の自然を楽しみたい■暑かったり安全に遊ばない■自然に触れたいが、自然に触れたい場所が少ない

①ターゲット像の共有

前回のターゲットワークショップで整理した内容を共有いたしました。
ファミリー層をメインターゲットとしながら、各年齢層や過ごし方で住み分けを行う方向で参加者の皆さんは異論ない印象です。

ワークショップテーマ

- ① どうしたらもっと子どもたちが自然体験に興味を持って参加してもらえるか?
- ② どうしたらファミリー層とその他の層の満足度を両立できるか?

①アイデア記載

自然体験ブースチーム、イベントブースチームの2チームに分かれ、それぞれ上記テーマに沿って当日のコンテンツを議論いただきました。

②アイデアの発表

今までの構想会議で最もアイデアの発散、議論が活発だった印象です。
2チームに分かれましたが、多くのアイデアに共通項がみられました。
火を扱うことを学んでもらうことや、公園内の川の水の活用、地元や会場の自然を活かした出し物・商品を販売するなど各々にアイデアを出していきました。
各自の専門性を活かした面白いアイデアも数多く出ていました。



安全管理研修

令和4年10月20日

ワークショップから得られたこと、気づき

イベントの方向性、検証事項に関しては市民の方々とも合意できている印象

ターゲットについての説明、及びイベントでの検証事項の説明に対しては市民感情との乖離は少ないという印象を持っています。説明中頷いて聞いていただけの方も数多くいらっしゃいました。いかにターゲット毎に住み分けを行い、スムーズな導線を作るかが重要であると考えます。

屋根のない学校の自然資源をつかった工作など自然を活かしたアイデアが多く上がってきました

印象が強かったのは、自然体験ブースとイベントブース双方において同じようなアイデアがたくさん出ていたことです。特に、いなべの自然を知ってもらうためのアイデアや、自然を活かしたリラクゼーションなどの出し物に比重が置かれていた印象です。市民の皆様もいなべの自然には愛着と誇りを持っている印象で、一般の方にもっといなべのことを知ってほしいと考えていらっしゃるのだと個人的には強く感じました。

集客面のアイデアが若干弱い印象はあるが、濾過水でカクテルを作ったりなど魅力的なアイデアも出てくる

一部、インパクトのあるアイデアが出てきており、とても面白い企画内容になりそうだという予感を持ちました。

ただ、自然体験に対して興味を持っていないファミリーを集客するという点では、アイデアが薄めであると感じています。自然体験を前提としたコンテンツ設計になっている印象で、自然体験に対してまだ興味関心を持っていないファミリーにとっては、参加ハードルが高く感じられる可能性があると考えています。純粋にイベントを楽しみに来場した方に、自然体験を周知し、今後の利用者になっていただくには、よりライトなコンテンツが必要であると個人的には考えます。

イベントブースから自然体験ブースへの誘導方法に課題

出し物や体験の内容は数多く出てきたが、イベントブースから自然体験ブースへの誘導アイデアがまだ希薄である印象を受けております。みどりのオープンスペース及び11月の実証実験では、より多くの方にいなべの自然資源について知っていただくことが重要課題の一つであると認識しています。まだまだ工夫、議論の余地があると考えます。



講師:

プラムネット株式会社 アウトドア共育事業部 統括リーダー 渡辺直史

場所:

屋根のない学校(屋内、屋外)

目的:

親子向け実証実験イベント実施に備え、参加者が体験メニューを安全に受けられるよう、実施者側(市民プレイヤー)が安全管理研修を受講し、知識・技術を習得する。

研修内容:

実証実験イベントコンテンツに沿うもの

●屋根のない学校内の危険植物・動物に関する知識、水辺での安全管理方法を習得

●焚き火体験メニューを予定しているため、火の取り扱いに関する注意事項

●子どもの見守りや声掛けに関し、実施者側の役割分担を話し合いながら、安全に野外体験メニューを提供できる体制づくりを行う ほか

■ 実証実験イベント inabe Green Lab.vol.2 当日の様子

来場者数計

約500人



焚き火台でご飯を炊こう 28人



焚き火を囲もう 93人



木工プレーパーク 100人前後



「屋根のない学校」ツアー 44人



テントサウナ 30人

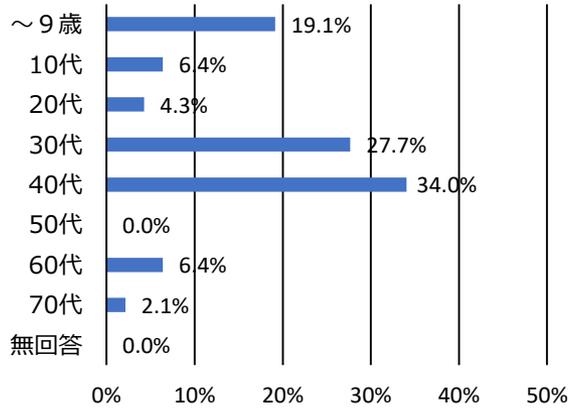


森の中の図書館

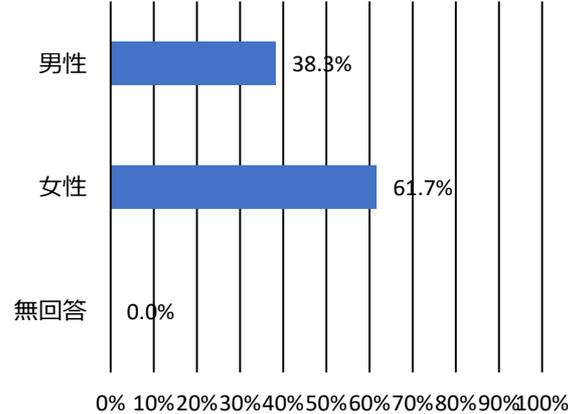
■ 実証実験イベント inabe Green Lab.vol.2 アンケート結果

回答者 47人

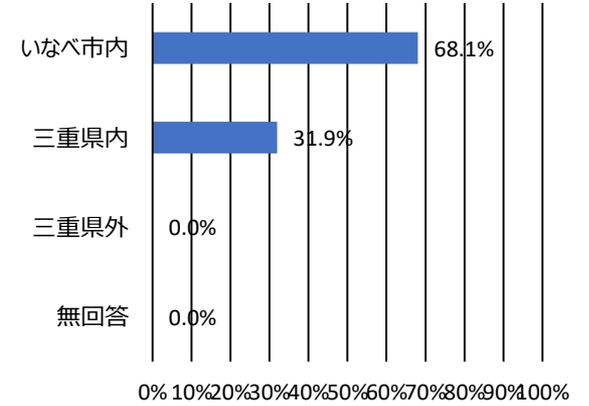
問1 年齢



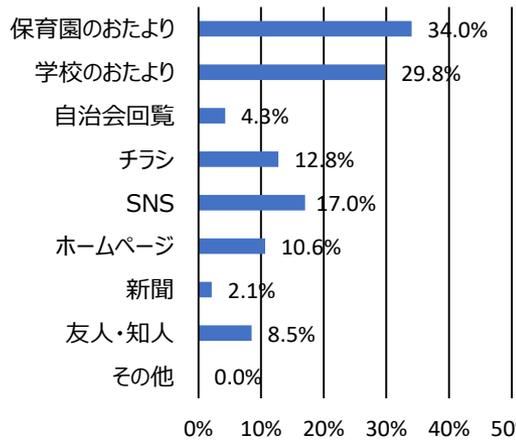
性別



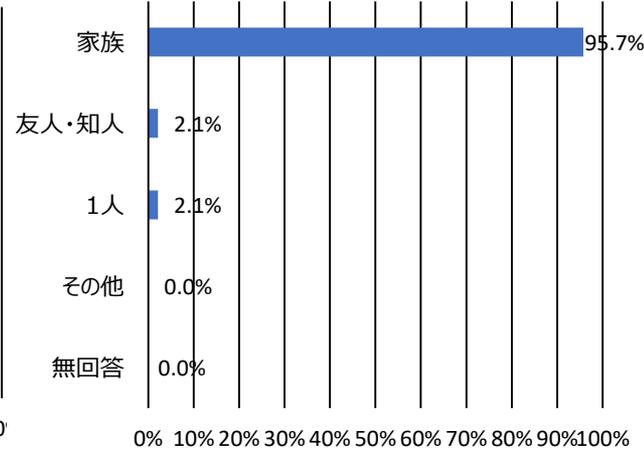
居住地域



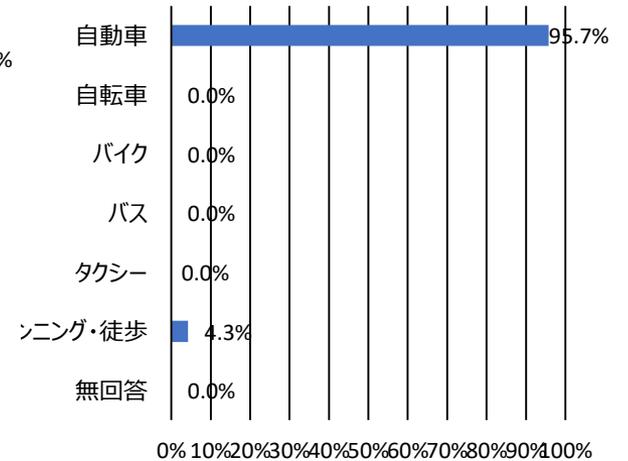
問2 参加のきっかけ



問3 同行者



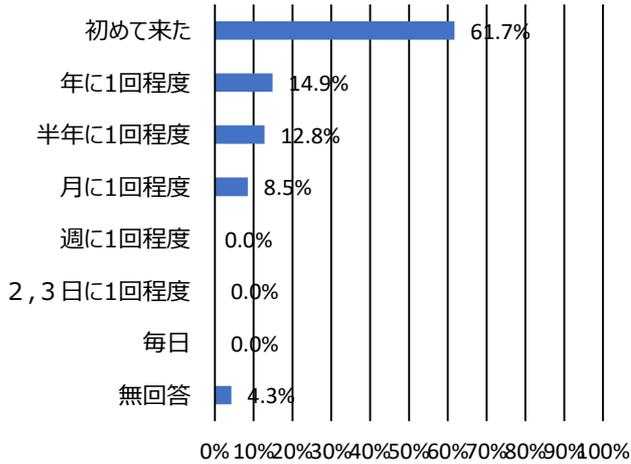
問4 交通手段



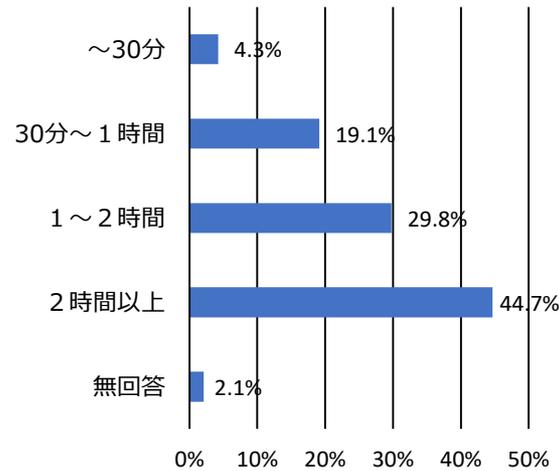
■ 実証実験イベント inabe Green Lab.vol.2 アンケート結果

回答者 47人

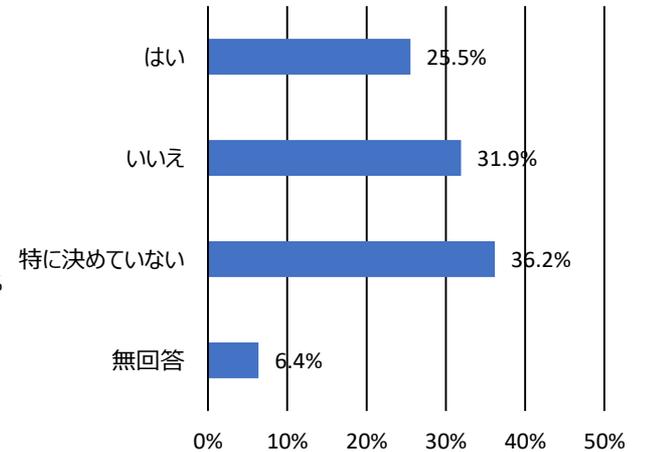
問5 屋根のない学校への来訪頻度



問6 滞在時間・滞在予定時間



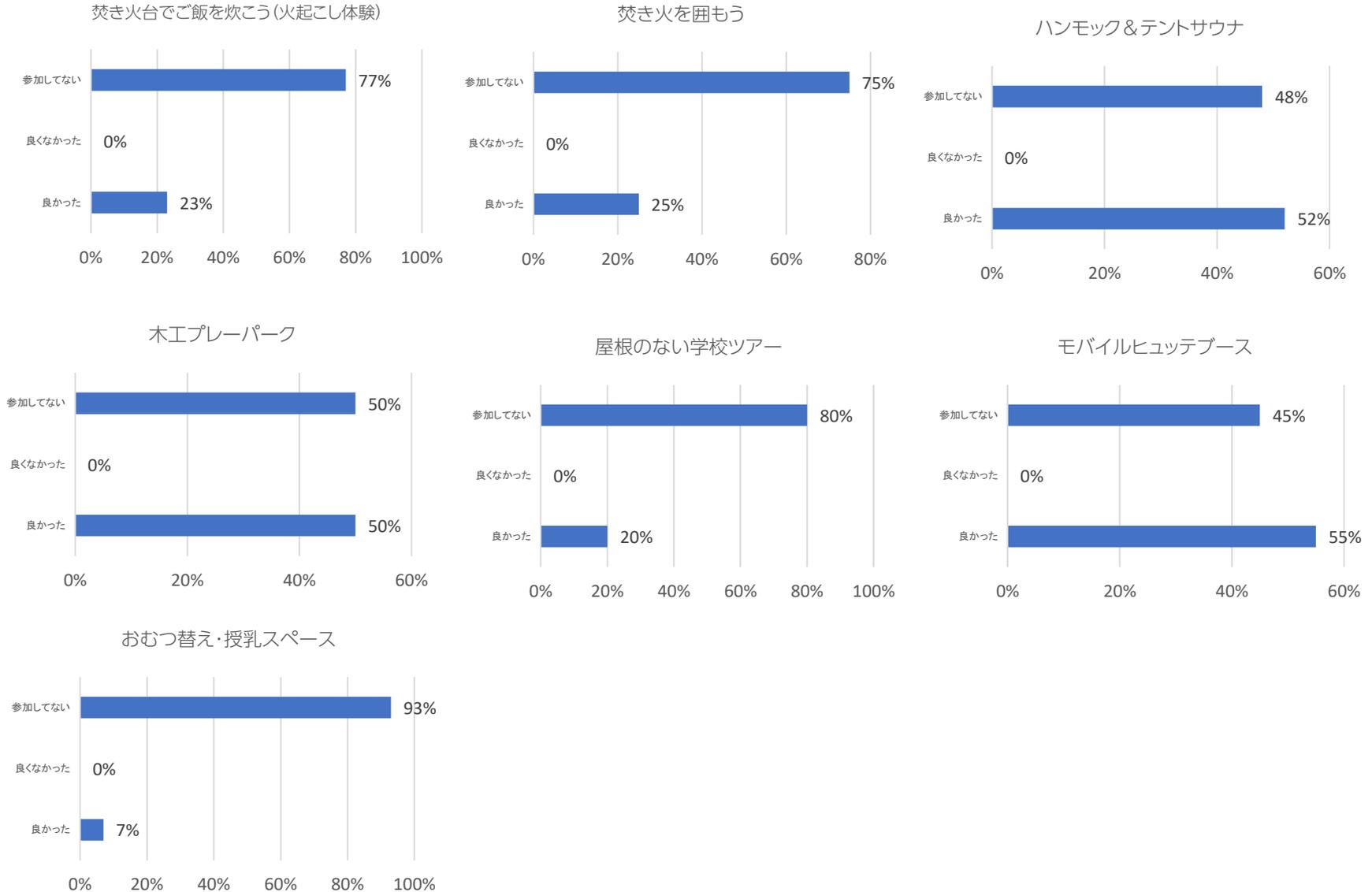
問7 市内施設へ立ち寄るか



■ 実証実験イベント inabe Green Lab.vol.2 アンケート結果

回答者 47人

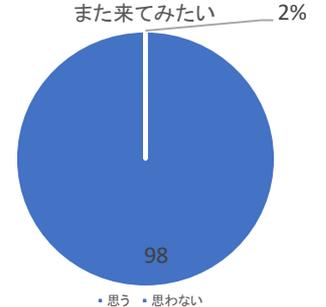
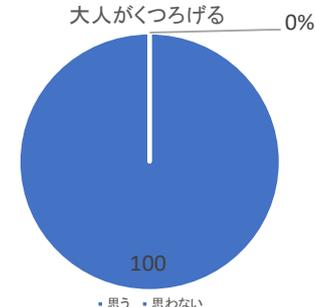
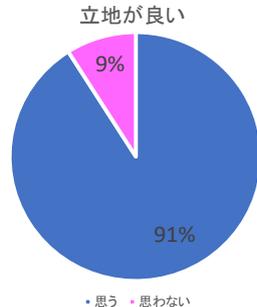
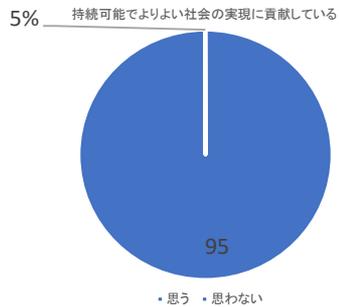
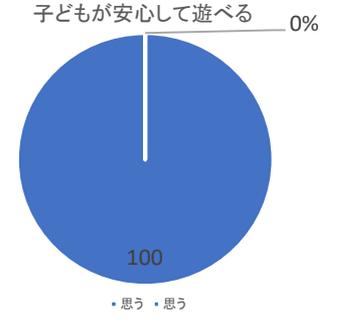
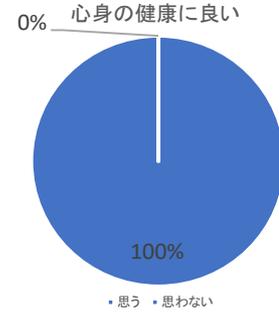
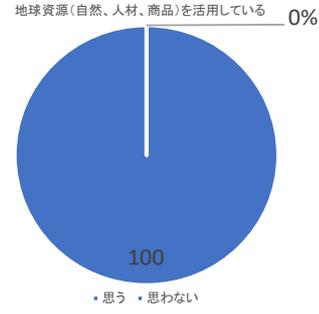
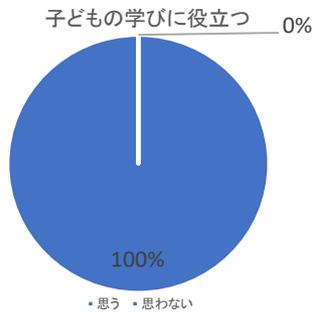
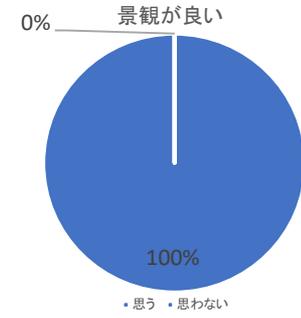
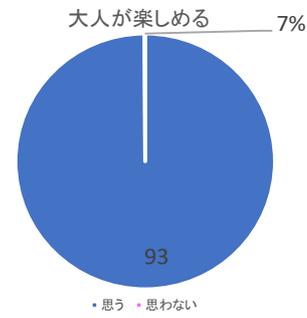
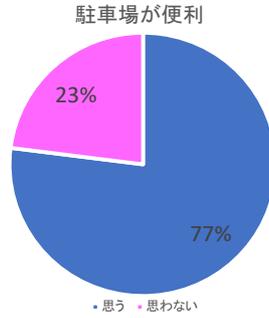
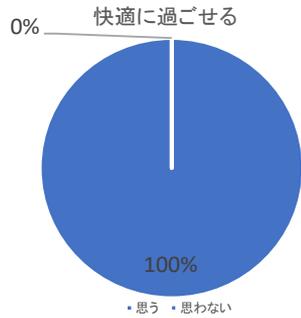
問8 各コンテンツの感想



■ 実証実験イベント inabe Green Lab.vol.2 アンケート結果

回答者 47人

問9 イベント全体の印象



■ 実証実験イベント inabe Green Lab.vol.2 アンケート結果

回答者 47人

問10 イベント全体の印象

とても良い時間が過ごせました。子供が自由に安全に過ごせたのがとても良かったです。またぜひ開催してほしいです。
のんびり過ごすことができ楽しかったです。

つくるやつがよかった

スタッフの方が丁寧に教えてくださり嬉しかったです。また開催してほしいです。ありがとうございました。

子ども親も心身共に解放され楽しかった！の一言です♡

一日中遊べました。子どもが楽しめました！またぜひ開催してほしい。

子どもにとって自然とふれあう機会となり良いイベントだと思います。

子どもが一人でご飯を炊けるか心配しましたが、周りのスタッフの方々が助けていただきなんと一人で最後までできました。子どもとても楽しかったみたいです。ご飯美味しかったです！

大変良い経験をさせていただきました。ありがとうございます。

参加人数を増やしてほしいです。

天気も良く孫も喜んでいました

体験ブースを増やしてください

ツアーがとても楽しかったです

色々な虫が見れて良かった

子どもの体験だけでなく大人もよく楽しめます

また来たいです

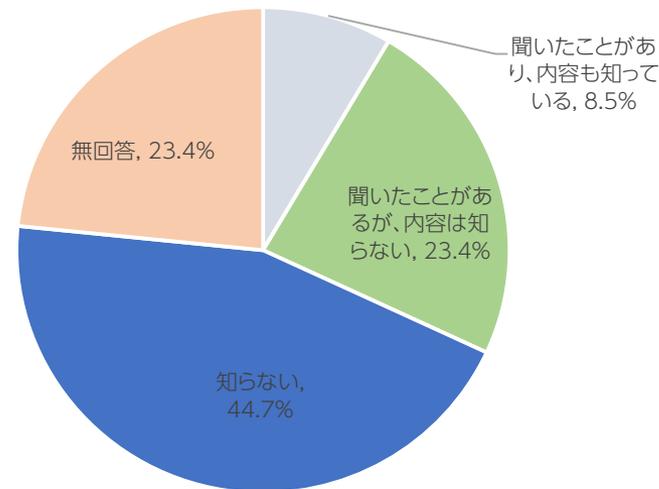
自分で火を起こす体験があれば参加したい。ここは、たくさんの珍しい生き物に出会える場なので子どもは楽しい
なつかしさとおしゃれさを兼ね備えていて子連れだけでなく若い方も来られるようになる要素がありそう

雨天の遊び方も教えてほしい

ウケテ楽しかったです。また利用したいです。

なわで縄跳びが楽しかった

問11 「グリーンインフラ」について聞いたことがあるか



問11 グリーンインフラとして活用できるもの・アイデア

治田寺山

歩いて行ける場所いろいろな場所に遊んでも良い場所(山)があると良い
いなべ公園

川でBBQができると良い

わからない

屋根のない学校をもっと周知してください

おいしい物産品をもっと作ってほしい

うまく利用されていない森林(上相場、上之山田)

今日のようなイベントがまたあるとうれしいです。飯盒申しようとしたら締め切りで残念でした。

第4回構想会議実施レポート

ワークショップ実施詳細

① イベント当日の来場者アンケート結果の共有

イベント当日、来場いただいたお客様のアンケートについて、集計結果を参加者の皆さんへ共有させていただきました。来場者からの声は好意的な内容が多く、とても励みになった様子でした。



② チーム毎にイベント内容の振り返り

「木工プレパーク」「火起こしブース」「その他集客コンテンツブース」の3チームに分かれてそれぞれ振り返りを行いました。振り返りの形式はKPTと呼ばれる方式を採用いたしました。

KEEP：良かったこと、継続すること
PROBLEM：よくなかったこと、改善すべきこと
TRY：次への挑戦、新しいアイデア

以上の3つの区分に分けて振り返りを実施いたしました。それぞれのチーム内で活発な議論が行われ、中にはイベントの改善だけでなく、みどりのオープンスペースの設計の参考になりそうな気付きやアイデアもありました。とても有意義な振り返りとなりました。



③ みどりのオープンスペース 建設予定地の実地見学

振り返り実施後、宇賀川沿いの建設予定地の見学を行いました。実際の土地を目の当たりにすると、参加者の皆さんから普段の経験も踏まえた意見やアイデアが出ていました。



2022年11月12日(土曜)に開催した実証実験イベント「いなべグリーンラボ vol.2」に関して振り返りを行いました。イベント運営に携わってくださった皆さんの活発な意見交換を経て、たくさんの運営ノウハウと新たな「みどりのオープンスペース」設計への気付きを得ました。

開催目的

実証実験イベントの振り返りを通して、次回開催に向けたノウハウの振り返りを行うこと「みどりのオープンスペース」の設計に活かすことができるように、意見交換を行うことを目的としました。

当日の実施スケジュール

- ・10:00~10:20: 今回の趣旨・開催目的の説明・イベント検証結果の共有
- ・10:20~11:45: チーム分けを行い、振り返りワークショップを実施
- ・11:45~: 建設予定地の実地見学

■ ワークショップから得られたこと、気づき



■ 自然資源を活かした体験イベントが、いなべ市内のファミリー層から強く求められていること

実際の来場者の声を聞いた結果、子どもたちに自然体験を届けるといふ催しは、市民の皆さんから強く求められていると感じました。実証実験イベントは滞在時間が2時間以上とかなり長時間に及んだことや、イベントに対して概ね好意的な意見が多かったことから、市民の皆さんに喜んでいただける自然体験の形は概ね捉えることができたと考えます。

また、振り返りワークショップにおいて参加者の皆さんから数多くの改善アイデアも出てきておりました。次回イベントに対する熱意も強く感じられる結果となり、市民参加型で進めてきた一連のワークショップの効果が感じられる内容であったと考えます。

■ いなべの自然資源、そして「人」を活かすことができたこと

今回のワークショップを通し、最も顕著に感じているのはいなべ市の「人」の豊かさです。年間を通じての構想会議やイベントに参加いただいた皆さんは、みどりのオープンスペースの設計・運営にあたり当事者意識を持って参画いただいていると強く感じます。実証実験イベントにおける来場者からの好意的な意見に関しても、参加者でアイデアを考え、実現しているからこそ得られたものであると思います。

より多くの方に自然体験を届けるためにはどうしたら良いのかについてもアイデアが数多く出てきている状況です。次回イベント、及びみどりのオープンスペースの体験設計にも反映させながら、引き続きいなべ市の魅力ある資源を活かしていくことができたかと考えます。